



初夏の杉川（春野町）

目次

あいさつ.....	P2	藤原造園(株) 藤原利雄代表取締役 勤六等瑞宝章の榮譽に輝く.....	P5
静岡県都市住宅部都市整備局 しずおか緑・花・景観室室長 松井 正孝		本誌だより.....	P6~7
第二十四回通常総会開催.....	P3	静岡県造園施工管理技士会第十四回通常総会開催.....	P7
天城湯ヶ島町全国植樹祭開催.....	P4	話題の森・お知らせ・編集後記.....	P8
第十六回全国都市緑化フェア グリーン博みやさき'99 視察研修.....	P4~5		

あいさつ



静岡県都市住宅部都市整備総室
しずおか緑・花・祭推進室長
松井 正季

貴会員の皆様には、日頃より、二〇〇一年しずおか緑・花・祭の推進に大きな御支援を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、二十一世紀の始まりとなる二〇〇一年(平成十三年)の四月二十一日からゴールデンウィークを挟み、五月二十七日までの三十七日間を会期として、しずおか緑・花・祭を榛原郡吉田町で開催いたします。来場者は、概ね四十万人を見込んでおります。

会場は、大井川河口の右岸である県有地十四、七ヘクタールで、野鳥の楽園でもあり、富士山が遠望できる自然一杯の場所ではありますが、海岸からの風が強く、樹木や花など植物の生育には、厳しい気象条件です。

本年度は、基盤整備や道路整備などを引き続き行い、いよいよ植栽工事に取り掛かることとなります。

レイアウトは管理部分を除き、四つのエリアを設ける

こととしていますが、一つは「庭のエリア」として、ロックガーデンや展示花壇を予定しています。二つには「自然のエリア」として、ビオトープなどにより、環境に配慮した森づくりなどを提案します。

三つには「やさしさのエリア」として、「いやしの庭」や「五感の庭」といった園芸療法なども試みます。四つには「にぎわいのエリア」として、マーケットや野外ステージなど積極的な人々の交流を図る計画であります。

また、今回の目玉として、内外の新進ガーデニング・コンペティターの参加による「ワールド・ガーデニング・コンペティション」と貴会員等による「アーマーガーデン」しずおかの技」を企画しています。これにより、本県の造園業界の積極的な情報発信を期待したいと考えます。

最近では、各地で緑化ボランティア活動が活発になり、また、今やガーデニングが大変なブームです。県民の皆様の中に花や緑による楽しみや潤いを求める生活が着実に芽生えております。

この様な新しい動きの中で新世紀に相応しく、この緑・花・祭が今後、様々に行われるイベントの先駆けとなるものとして、皆様方のお力をお借りして、何としても成功に導きたいと考えております。

プレイベントをはじめ、花と緑に関わる様々な催しを計画してまいりますので、関係する皆様方の積極的な御提言や御支援、御援助を切にお願い申し上げます。



ガーデンマーケットイメージ図

第二十回通常総会開催

第二十回通常総会を四月二十八日(水)午前十時三〇分から、静岡市日興会館に於て、県環境部、高橋邦宏環境共生総室長、相模役の栗原裕康衆議院議員、顧問の鈴木尚典議会議員をはじめ、県、公社、関係団体等多数の御来賓の臨席を得て盛大に開催した。本年は西野勢作会長体制二年目の総会で、役員の変更もなく、十年度の事業報告及び収支決算、平成十一年度の事業計画及び予算など三議案が原案どおり承認された。

総会は、立木泰穂総務企画副委員長長の司会で進められ、渡井公平副会長開会のあと、西野勢作会長が「不況を反映し、悲観論がまん延しているが、これをバ

ネにして、協会の節度ある協調で乗り切ろう」とあいさつ要旨後述。続いて第八回緑地維持管理コンクール入賞者等の表彰を行った(別掲)後、司会を

第20回通常総会

社団法人 静岡県造園緑化協会



総会開催にあたって所信を述べる西野会長

渥美二郎総務企画委員長にバトンタッチを行い、米賀祝辞、議案審議に入った。来賓の方々からは、高橋邦宏環境共生総室長ほか相模役の栗原裕康衆議院議員、顧問の鈴木尚、前沢伯両県議の言葉よりそれぞれの立場からお祝いと激励の言葉をいただいた。議案の平成十年度事業活動では、(株)グリー

ンダイナミクス代表取締役 賀米宏和氏を招いての講演会、国県からの依頼によるシアター・プログラム事業、グリーンバンクからの上壤調査・分析の受託事業、空港建設に伴う郷土種の種子採取と養苗試験、貴重種の移植試験の受託、緑地管理マニュアルの発行、国際園芸博覧会、しずおか緑・花・祭、第五〇回全国植樹祭への協力事業、住宅展・環境展・造園施工管理技士会への出展など盛り沢山の事業と決算の報告が行われ原案どおり承認された。

十一年度も会員の資質向上のための研修会、講習会の開催、しずおか国際園芸博覧会、しずおか緑・花・祭等への協力関係機関からの委託事業、等積極的な事業展開を図る計画で予算案とともに原案どおり承認された。

総会終了後は、会場を変えて懇談会にうつり、情報交換等を行い、午後一時半にすべてを終了した。(会長あいさつ要旨)

第20回通常総会

社団法人 静岡県造園緑化協会



賞状を受ける清水市伊豆川都市部長

覧会)の開催、第二東名、静岡空港建設など他県にない優利性が、協会もこうしたイベントや事業に参加できるよう努力している。

公共事業も今後、削減が予想されるなかで、原価を割つての受注競争が始まっているが、いたずらにこの状況が続くと早晩破局がやってくる。厳しい環境だからこそ「推譲」の精神で、お互いを大事にしていかなければならない。

【受賞者紹介】

- 第八回緑地維持管理コンクール
【県知事賞】
清水市船越堤公園

【会長賞】

- 熱海市宮火葬場
- 【社】社会福祉協議会静岡市民プラザ
- 富士川町河川敷憩いの広場
- 安養寺運動公園(掛川市)
- 春野ふれあい公園
- 【協会長表彰】

【会員又はその代表者】

- (有)常華園 渡辺常重
- (株)不二・見造園土木 佐野宣之
- (株) 堀
- (株)の従業員
- 【会員の従業員】

- (株)富士見物産 佐々木光男
- 静鉄緑化土木(株)安本昌弘
- (株)八ヶ代造園 衛藤徹雄

天城湯ヶ島町全国植樹祭開催

第五十回全国植樹祭 国土緑化推進機構、静岡県主催が十日、天皇、皇后両陛下をお迎えし、田方郡天城湯ヶ島町で開かれた。

森づくり会場の西天城高原では天皇陛下がヒメシヤラ、皇后陛下がヤマボウシの苗木を植え、県が進めている悠久の森構想の一つ「あまぎの森づくり」の第一歩を記された。

陛下が「戦中、戦後の森林の乱伐で台風襲来の度、河川が氾濫して先人の努力で今は緑に覆われそのようなこともなくなった。これからは森林の大切さについて理解を深め、多くの人々が森づくりに協力する機運を高める契機となることを心から希望します」と述べられ、皇后陛下と共に静岡県林業技術センターに贈成してあったクスギ、コナラの種子を苗床



ヒメシヤラの苗木をお手植えする天皇陛下



ヤマボウシの苗木をお手植えする皇后陛下

に播かれた。

大会参加者らは森林の重要性を再認識し、次の世代に引き継ぐ緑化運動の推進を誓い合った。

植樹会場と式典会場を別々に設けて開催したのは、五十回の歴史のなかで初めてのことであったが、両会場合わせて約一万二千人が参加した。

協会会長も（第五十回全国植樹祭実行委員会）委員の一人として前夜のレセプションからの参加で、当日は天皇、皇后両陛下と共に記念植樹を行い、式典にも参加した。

第十六回全国都市緑化フェア グリーン博みやぎ'99 視察研修

「きらめく太陽 あふれる緑の まちづくり」をテーマに掲げ、宮崎市の阿波岐原森林公園をメイン会場に開催されていた全国都市緑化フェア「グリーン博みやぎ'99」を協会技術委員会委員六名で五月十三、十四の二日間にわたって視察研修を行った。二〇〇一年のしずおか緑・花・祭、二〇〇四年のしずおか国際園芸博覧会の事前研修の目的で視察を行ったがそのすばらしさに感動し、しずおか緑・花・祭も負けてはおれないと気を新たにした。

グリーン博宮崎'99は、会期六十五日間で五月三十日に閉会

したが、その間の入場者数は百九十万人を超え、予想した百万人をはるかに上回ったほか、最終日はもう一度見たという十万人を超える入場者で、大盛況の

うちに幕を閉じたという。

フェアでは、開幕前から注目を集めていたガーデンショー初の両ゴールドメダル受賞者であるロビン・ウィリアム氏が日本で初めて設計・監修した「英国式庭園」のほか、海外を含む二



イギリス式庭園

(コテージガーデン：田舎に暮らすイギリスの庭)
五七点の応募があったガーデニングの全園選手権でグランプリとなった作品を展示したジャパニカップ

ガーデン、二五〇組の家族、グループ約一、〇〇〇人の県民の



太陽の広場エリア・ウォーターガーデン

参加を得て作り上げた長さ二五〇m・巾一、五mの大花壇、小・中・高等学校、大学八十四校の出典による花壇など見せながら、来場者自身が楽しめるような会場づくりがよかった。

「英国式庭園では外国旅行に行った気分が味わえた」至る所に椅子が配置されて休めてよかった「ハイキングに来たよう」など、松林を背景に自然を生かした会場や会場内でもゆったりできる芝生の広場も人気があったと思う。

今回の成功のポイント



県民参加による庭作り（ハンギングバスケット：それぞれの作品に出展者ファミリーの写真、名前が入っている）

は、従来、夏休みや秋の緑化月間に合わせての開催が多かったが、宮崎では春の花が一番多い時期に開催したことで、観光スポットと隣接していたことも県外からのツアー増につながると分析している。晴天にも恵まれ次々に開花する約一、一〇〇品種、一〇万株の草花を求めて五回以上の来場者が一万三千人とリピーターが多く、平均すると百万県民が平均二回も入場した計算になる。入場者の



宮崎フラワーフェスタ99（会場：子供の国）

満足度が高かったということであろう。

吉田町で開催される「しずおか緑花祭」も二年後にせまつた。宮崎に比較すると会場の条件は全く悪い。それだけに我々の腕の見せどころだと技術委員一同、宮崎をあとにした。

い、これからの活躍を祈念した。

藤原氏は昭和四十六年、熱海市造園業組合組合長に就任しその後、県造園組合連合会の設立に参画。四十九年には会長、五十二年には会長に就任した。五十年からは日本造園組合連合会理事など造園関係団体の要職を歴任。この間、四十九年から造園技能検定員と



雄氏 叙勲 祝賀

藤原氏の受章は、永年の技能検定の功績が認められたもので、昭和六十一年から平成五年までの八年間、当協会理事としても活躍された。

その祝賀会が当協会外三団体と親戚代表が起人となつて、六月十二日、熱海市ホテル大野屋で開かれた。祝賀会場には、熱海市助役をはじめ大勢の来賓、関係者一六〇名がかけつけ、藤原氏の受章を祝い、これからの活躍を祈念した。

藤原氏は昭和四十六年、熱海市造園業組合組合長に就任しその後、県造園組合連合会の設立に参画。四十九年には会長、五十二年には会長に就任した。五十年からは日本造園組合連合会理事など造園関係団体の要職を歴任。この間、四十九年から造園技能検定員と



学校花壇

**藤原造園(株)藤原利雄代表取締役
勲六等瑞宝章の荣誉に輝く
おめでとうございます**

して、技能検定の厳正、公平な実施にあつた。

また、東京農業大学短期大学部環境緑地学科の実習生の委託受人機関として、十数年にわたり毎年六、八名の学生を受け入れ、寝食をともにしながら現場での指導を行っている。

今後、業界発展のため、健康に留意されて益々御活躍を祈念したいと思います。おめでとうございました。

本部だより

協会では理事会、又は会計監事も含めた役員会を四半期に一回程度開催し、重要案件を審議しておりますが、その結果について支部活動で会員に徹底してない面もあるので出来る限り会報でお知らせしたい。また、三つの委員会もその時の課題、問題点等について研究、討議を重ねております。本号では本年度総会以後に開催した理事会、委員会の内容について報告します。

理事会

六月十八日(金)、日興会館に於て開催し、次項について協議し、承認された。

一、総務委員会、「経営建設企業体」の構成について、県土木部建設業室、古郡主幹を招いて勉強会を行ったが、その内容を支部活動で報告しながら引き続き総務委員会が研究していく。

二、例年行っている公共機関への要望については、できる限り六月中旬に日程調整の上、要望活動を行う。

三、静岡県教職員生活協同組合員との庭作り、管理の特約店契約について、原案通り承認され、これから特約店契約を希望する会員を募る。

四、啓蒙労働委員会では、公共工事設計労務準備が普通作業

員より大幅に低い実態について、三省の公共工事労務費調査会 藤谷室長を招いての勉強会を実施した旨の報告があった後、三省連絡協議会の実施した同じ内容で全会員の貸金調査を行うことが承認された。

五、会報「緑の宝」夏号の発行について、啓蒙労働委員会の検討結果とおりの内容とすることに決定。

六、技術委員会では、現在、問題になっている剪定技術の処分対策について廃棄物対策室、鈴木隆主幹兼一般廃棄物係長を講師に招いて勉強会を開き、その対策を研究中である旨の報告のあと、会員や発注者側の実態調査を行うことが承認された。

七、我々の商売敵を養成するようなものだと異論のある「シニア・ワークプログラム受託事業」契約については、管理業務主体の会員では死活問題でもあるので両手を上げて賛成ではないが、国、県、市町村の重要な施策であり、時流に逆らって筆をさすことも出来ないということで全会賛成で承認された。

協会と詰めて受講希望者に連絡することとなった。

九、協会発行の「街の樹」二〇〇選には第三版を重ねたが掲載現物がすでに採伐されたり、樹種が変化したりしているのので全面改訂版を発行すべく準備しているが、当面の在庫がなくなたので、〇〇〇部増刷することが承認された。

なお、当日は理事会に先立って静岡園芸代表取締役 坂本大輔会員から特別発言が求められ「明るく開かれた県造協であって欲しい」、各地区の会員も役員会で意見を述べる機会を設けて欲しい。旨の要望があった後、具体的な例として何故、商売敵の造園工のシルバリー人材を養成するのか、会員、近隣の施工事例を示して質問があった。

これに対し、事務局より、リストラによる中途離職者、定年退職者等の就業機会を確保することは国、県、市町村の大きな課題であり、シニア・ワークプログラムの受託事業は国からの要請によるもので、筆をさすことは、返って造園建設業界を苦境に導く。もし、当協会が

受け入れなくても三日程度の講座で二、〇〇〇人以上の養成計画もあり、その人たちが本格的に庭園の管理に従事するとすれば、その方が得策である。むしろ、受け付けて造園建設業、真の管理技術に理解者を増やすべきではないかと説明があった。

また、四月二十六日に会員あてフリップが入ったが、ラジオのスポット放送について何も知らされていないし、経費はいくらであったのかと質問があり、事務局より丁度全国植樹祭前の緑の週間中であり、経費は二〇万円であったので会長に了承のうえ、通常の啓蒙宣伝費の一環として実施した旨の回答があった。

ここで予定した三〇分を超過したので通常の理事会へと移行し、前記一〜九の内容について最近にない熱のこもった討議がなされた。

総務企画委員会

一、総務企画委員会の本年の主な研究テーマは「共同受注体制の整備」で、年始めに、五月二十日、土木部建設業室、古郡武主幹兼契約係長を講師に招いて望ましい共同受注体制のあり



造園施工管理技士会総会の席で講演の富野卓氏

程を建設災害防止

方について勉強会を開催した。

日本造園建設業協会静岡県支部にも所属しているメンバー

の一部ですすでに「経営建設企業体」は構成しているが、当日の勉強会の内容を支部活動で報告し、希望者を把握しながら研究を続けていくこととなつた。

これから大型プロジェクトを控え、また、ランク制が検討されている折、そのあり方を真剣に研究していかなければならない。

二、公共機関への要望について
は、県内の造園業建設業全体共同事業項であるので、日本造園建設業協会静岡県支部と連名で行つてはどうかという意見と過去のいきさつから単独がよいのではという意見が提案されたが結果としては連名による要望は実現しなかつた。

三、静岡県教職員生活協同組合(組合員二五、〇〇〇人)の特約店契約については、全員賛成で今後、特約店契約の希望を募りサービス等の勉強会が必要となつた。

啓蒙労働委員会

一、啓蒙労働委員会の本年の研究テーマは、公共工事に於け

る造園工労働単価が普通作業員よりなぜ安いのかその実態を究明することである。

本年第一回の委員会は、五月二十七日に協会事務所に(財)経済調査会 中部支部 藤谷室長を迎えて勉強会を開催した。いわゆる三省労賃とは何か、どのような仕組みで調査されるのか、造園工とは何なのか、その対象となる経費の内訳はどうなっているのか。その実態を聞いてもらう。

今のような矛盾した労働単価になっているのは、抽出で調査対象となつた会社の対応にも不備があつたのではないかと云うことになり、三省(建設省、農林水産省、運輸省)調査に準じて全会員を調査してみようという結論に達した。

二、受講料免除による特別教育も最終年度を迎え、造園建設業に係りの深い小型車輛系建設機械他四講座について受講希望者を募ることとなつた。

三、会報「緑の宝」夏号は、特別寄稿を松井正季しおほか緑・花・祭推進室長にお願いし、第二〇回通常総会、藤原造園(株)代表取締役 藤原利雄氏の叙祝祝賀文、各委員会、理事会の活動内容等とすること

で承認された。

技術委員会

一、技術委員会は本年二回目となり、講師に廃棄物対策室 鈴木主幹を招いて一般廃棄物と産業廃棄物の違い、剪定枝条は産業廃棄物ではないことなどについて学んだが、現場では市町村焼却場の受入体制がそれぞれ異なるので、会員の処理方法等実態調査を行なうということになった。

二、二年度になるシニアワークプログラムについては、いろいろ異論はあるが国の大きな流れであり実施せざるを得ない。本年は二会場増えて合計六会場、二二〇名の受講生の予定である。講座開催に備えて実習会場、講座内容と担当者等を検討しておくことになった。

三、常業学園短期大学付属環境システム研究所が主催する自然環境復元の理論と技術講座を後援の形で参画し、会員の積極的な参加を促すこととなつた。

講座内容は「身近な空間のエコツアー」住環境から里山まで、九月七日、八日の二日間で場所は静岡市黒金町のIR社員センターの予定。

静岡県造園施工管理技士会第十四回通常総会開催

県内の造園施工管理技士で構成する静岡県造園施工管理技士会(乗松文男会長、会員二一九名の通常総会が六月二十九日、静岡市のクーパーホールで開催された。

最初にあいさつに立った乗松会長は「しずおか緑・花・祭と国際芸術博覧会の準備は着々と進んでおり、技士会上げて英知をしぼり、本領を發揮できるよう一層の研鑽に励み、この大きな催し物に技術者集団として貢献できるよう前進しよう」と呼びかけた。

議事では、十年度収支決算、十一年度事業計画等が原案どおり承認され、二年に一度の

役員改選があつたが会長、副会長は引き続き就任することが決定された。

続いて来賓の都市住宅部しずおか緑・花・祭推進室長が緑・花・祭の準備状況報告を含めてあいさつがあり、また、技士会の事務局を領する西野勢作(社)静岡県造園緑化協会会長は、技術者集団としてと技術研鑽に励み、イヴェントに貢献しよう」と激励があつた。

最後に本年三月まで静岡県沼津土木事務所長で、現在、(株)昭和設計事務所技士長、富野章氏の「生きとし生けるものにやさしい道づくり」と題し、全国植樹祭の進入路となつた西天城高原道路の自然にもちした工法の導入内容等について、一時間半の講演があり全て終了した。



あいさつする乗松文男会長

